

令和6年度 全国学力・学習状況調査 新潟市の結果

平均正答率

学年	教科	新潟市 平均正答率	全国や県の平均正答率 (県：新潟市を含まない)	
			全国(公立)	県
小学校 6年	国語	68	全国(公立)	67.7
			県	67
	算数	61	全国(公立)	63.4
			県	61
中学校 3年	国語	58	全国(公立)	58.1
			県	56
	数学	51	全国(公立)	52.8
			県	49

◆この調査は令和6年4月18日に新潟市内の全小学校の6年生と中学校及び高志中等教育学校前期課程の年3生を対象に、国語、算数・数学の2教科について行われました。

◆平均正答率について

小学校国語では全国・県とほぼ同じく、小学校算数、中学校数学では全国の正答率を下回りました。

Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>


NO. 4

令和6年11月11日

編集・発行

学校支援課 広報担当

Report - 令和6年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて -

今年度の全国学力・学習状況調査の結果が各学校へ通知されました。新潟市全体としては、小学校国語で全国平均を若干上回り、小学校算数、中学校数学で全国平均を下回ったという結果です。

また、各教科の平均正答率の状況は全国と同様の傾向にありましたが、それぞれの教科で全国平均正答率を下回ったり、無答率が高かったりする問題が複数ありました。一方、児童生徒質問紙調査においては、非常に高い数値を維持、向上させているという実態があります。

校内の研修計画等では、各校の実態に応じて、研究を進めてくださっていることと思います。一定の効果が上がっているもの、期待した結果につながっていないもの等、学校の実態と照らし合わせ、今年度のまとめや来年度の研修計画を立ててもらえればと思います。

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果

学年	教科	新潟市 平均正答率	全国や県の平均正答率 (県：新潟市を含まない)		差	新潟市 令和5年度 の平均正答率	令和5年度 結果での全国 や県との差
			全国(公立)	県			
小学校 6年	国語	68.1	全国(公立)	67.7	+0.4	68.0	+0.8
			県	67.2	+0.9		+1.0
	算数	61.4	全国(公立)	63.4	-2.0	62.8	+0.3
			県	60.9	+0.5		+0.8
合計	129.5	全国(公立)	131.1	-1.6			
		県	128.1	+1.4			
中学校 3年	国語	58.1	全国(公立)	58.1	0.0	70.0	+0.2
			県	56.0	+2.1		0.0
	数学	50.8	全国(公立)	52.5	-1.7	50.0	-1.0
			県	48.8	+2.0		+1.0
合計	108.9	全国(公立)	110.6	-1.7			
		県	104.8	+4.1			

児童生徒質問紙について

- 小学校、中学校ともに全国平均を上回った項目(小:57/60項目、中:61/62項目)が非常に多かったです。内容をみると、ICTを活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」に関する取組状況で、全国平均を大きく上回りました。特に、「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の項目は、小学校で10ポイント、中学校で13ポイント以上上回りました。その他にも「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」「各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行いましたか」「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」等の項目で顕著な伸びが見られました。
- 令和5年度と比べて3ポイント以上回った項目は、「小学校児童質問紙」で8/60項目、「中学校生徒質問紙」で24/62項目(一部他年度との比較)でした。

また、市の施策に関する内容は次のような結果となりました。

(1) 新潟市総合計画2030政策指標

指標	R5年度	R6年度
将来の夢や目標を持っている	小 80.7 中 64.7	小 82.3 中 65.4
自分にはよいところがある ※1	小 85.6 中 78.8	小 85.3 中 84.3
学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりした	小 83.5 中 84.7	小 86.4 中 86.4
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある ※2	小 83.7 中 67.4	小 87.2 中 78.6

※1 指標「自分にはよいところがある」、「学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりした」については、「新潟市生活・学習意識調査」(全学年対象で実施)で評価することとしている。表内の数値は、児童生徒質問紙と同様の内容での回答状況のため、参考数値である。

※2 令和5年度調査から「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」に質問が変更されているため、参考数値となる。

②新潟市教育ビジョン第4期実施計画施策指標

指標	R5年度	R6年度
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	小 83.5 中 84.7	小 86.4 中 86.4
将来の夢や目標を持っている	小 80.7 中 64.7	小 82.3 中 65.4
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小 96.1 中 95.5	小 97.6 中 96.1
5年生までに(1・2年生のときに)受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用したかについて「週1回以上」と回答	小 96.9 中 98.5	小 97.1 中 98.4

新潟市の子どもたちは、児童生徒質問紙調査において市の施策に関する内容以外でも非常に高い数値を維持、向上させています。これらは、先生方の日頃の指導の積み重ねによるものです。

また、今年度の結果だけを見るのではなく、2～3年の中期的な視点で見ると、違った成果や課題も見えてきます。例えば、「学力の平均値と学力の伸びは一致しない」ということです。これは、R6年度平均値が高くてもR4年から伸びていない学校があったり、平均値が低くてもR4年度から着実に学力を伸ばしている学校があることから分かります。自校の実態にしっかりと目を向け、「子どもの実態に応じて伸ばす」ための授業改善を展開する必要もあると言えます。

さらに学力向上、授業力向上を目指していただけるように、各教科の課題から考えられる方策を次のページから載せてあります。ぜひ、ご覧いただき、日々の授業を考える際にご活用ください！

小学校国語

「思考力、判断力、表現力等」の「A 話すこと・聞くこと」の正答率が50%台でした。他の領域に比べて低く、全国的な課題でもあります。

【課題】資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する

〈問題番号〉1二(2) 市正答率54.1% 誤答率45.3% 無解答率0.6%

〈問題の概要〉

オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する。

〈正答〉

2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。

〈誤答例①〉

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
 - ・和田さんが、相手が興味をもっていることに気付いたことは捉えている。
 - ▲用意していた実物を示しながら話したことを捉えていない。
 - ▲【和田さんに届いたメールの内容】を引用して話していると捉えた。
 - ▲「そうなんです。」と相手の話を受け止めている状況を引用していると判断した。

〈誤答例②〉

- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。
 - ・和田さんが自分の体験を加えて話していることは捉えている。
 - ▲相手が興味をもっていることに気付いたことを捉えていない。
 - ▲村木さんの発言⑥が「よく分かりました。おもしろそうですね。」と短い発言であったことなどから、村木さんが和田さんの話した内容に興味をもっていないと捉えた。

【改善の方向】

資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する



資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、相手や目的を一層意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えることが重要です。また、実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切です。

【学習指導に当たって】

相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫できるように指導する



音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定することが大切です。その際、目的や意図に応じて資料の順番を変えたり、適切な時間や機会での資料の提示の仕方について検討したりする時間を設けると効果的です。

【具体的な授業の例】

学習を振り返り、情報を整理することのよさのほか、資料を提示して話すことのよさ、オンラインを活用することのよさについての理解を深めることができるようにする指導事例

→報告書P31、32 「授業アイデア例」の指導事例②



小学校算数

昨年度は「伴って変わる二つの数量」、一昨年度は「割合」について、このSupportで課題として取り上げました。今年度も引き続き「速さ（C変化と関係）」に課題が見られました。

【課題】速さの意味を理解している

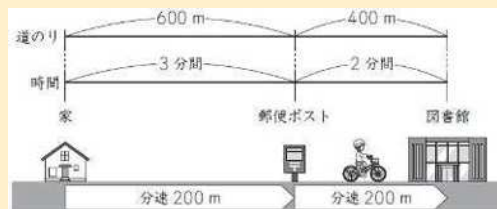
〔第5学年〕C 変化と関係

〈問題番号〉4(4) **市正答率49.7%** **誤答率45.1%** **無解答率5.2%**

〈問題の概要〉

家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く
(速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求める)。

〈正答〉分速200m



〈誤答例①〉

分速400m

▲自転車の速さが、「家から郵便ポストまでの分速200m」、「郵便ポストから図書館まで分速200m」であるとき、家から図書館までは分速400mになると誤って捉えている。つまり、速さの意味を理解せず、単純に和を解答としていると考えられる。

〈その他の誤答例〉

分速1000m、分速500m、分速80mなど

▲問題場面の数量を用いているが、速さを求めることができていないと考えられる。
※前段の問題4(2)、4(3)とのクロス集計による関連を見ると、「3分間で180m歩くことを基に1800m歩くのにかかる時間を求める」4(2)は、4(4)で正答の児童の84.8%が正答している。また、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断しその理由を記述する」4(3)は、4(4)で正答の児童の73.5%が正答している。速さの意味をきちんと理解する必要がある。

【改善の方向】問題場面や図、式を関連付けて、求めた速さの妥当性を検討する



求めた速さや求め方を式に表し、速さの意味を考えることが大切です。さらに、速さの意味に基づいて、求めた速さなどを図に表して問題場面と比べ、求めた速さが妥当かどうか判断できるようになることが大切です。

【学習指導に当たって】二つの数量の関係に着目し、速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について、理解できるように指導する



道のりと時間が比例の関係にあることに着目します。本設問では、家から図書館までの道のりとかかった時間を用いて、自転車の速さを求める活動が考えられます。その際、1分間あたりに進む道のりがいつでも200mで変わらないことを捉えることができるようにすることが重要です。

【具体的な授業の例】道のりと時間の関係に着目し、問題場面や図、式を関連付けて、求めた速さの妥当性を検討する指導事例 「家から図書館までの自転車の速さを考えよう」
(第5学年) 報告書P70、71、72 「授業アイデア例」の指導事例



<「速さ」と「割合」の理解に課題 ～これまでの問題との関連～ >

令和5年度4(1)、令和4年度2(1)-(3)など、これまでの結果から「速さ」及び「割合」の理解に課題があることが分かります。二つの関係を表に表し、「速さ」及び「割合」が変わらないとき、二つの数量の関係が比例の関係にあることを確認できるようにする学習活動が有効であると考えられます。

中学校国語

昨年度も「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」に課題がありました。
今年度は、「B 書くこと」の「ウ 考えの形成、記述」に課題があります。

【課題】

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する

〈問題番号〉 3四 市正答率 47.4% 誤答率 37.4% 無解答率 15.2%

〈問題の概要〉

表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する。

〈誤答例〉

2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答している。

・指定された文に適切に続くように、表現を工夫して物語の最後の場面は書いている。

▲自分が工夫した表現について、どのような効果があるのかを書くことができない。

▲自分が取り上げた表現には、指定されたこととは別のことを伝える上で効果があると書いている。

【改善の方向】

自分の伝えたいことが伝わるように、表現の効果を考えて工夫して書く



自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが重要です。

【学習指導に当たって】

読み手に伝えたいことを明確にし、そのねらいに応じた表現の工夫ができているかを確かめられるように指導する



例えば、物語を創作する学習の中で、下書きした文章などを読み合い、どのようなことを伝えようとして各場面の内容を構想していたのか、自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているのかなどを、説明したり確かめたりする学習活動が考えられます。

【具体的な授業の例】

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する指導事例
～学習の流れ～

① 学習内容と言語活動を確認し、目的意識をもたせるとともに、学習の見通しを立てる。

〈学習内容〉表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章にするための工夫をする。

〈言語活動〉体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く。

② 物語の構想を練る。

③ 表現の効果を考えながら、描写を工夫して物語の下書きを書く。

④ 書いた物語をグループで読み合い、描写の工夫について検討する。

⑤ 物語の下書きを推敲し、清書をする。

⑥ 学習を振り返る。



→報告書 P62～65 「授業アイデア例」

中学校数学

一昨年度、昨年度に引き続き、今年度も「文字を用いた式」について、継続的な課題として取り上げています。全国的な課題でもあります。

【課題】 目的に応じて式を変形し、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて説明する

〈問題番号〉 6 (2) 市正答率 28.8% 誤答率 47.5% 無解答率 23.7%

〈問題の概要〉

正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に入れた整数の和が、□に入る整数の和の2倍になることの説明を完成する。

〈正答例〉

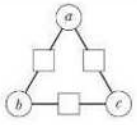
$$\bullet 2(a+b+c)$$

〔第2学年〕A 数と式

$a+b+c$ は○に入れた整数の和だから、 $2(a+b+c)$ は○に入れた整数の和の2倍である。したがって、□に入る整数の和は、○に入れた整数の和の2倍である。

説明

○に入れた整数を a, b, c とすると、
3つの□に入る整数は、
 $a+b, b+c, c+a$ と表される。
それらの和は、


$$(a+b) + (b+c) + (c+a)$$
$$=$$

〈誤答例〉

上記正答例等の記述内容不足以外の、 $(a+b) + (b+c) + (c+a)$ を誤って計算した、 $a^2+b^2+c^2$ 、 $ab+bc+ca$ 、 $(a+b+c)^2$ など

▲ $a+a$ を a^2 、 $a+b$ を ab と計算したり、 $2(a+b+c)$ を $(a+b+c)^2$ と表したりしたと考えられる。

【改善の方向】 事柄が成り立つことの説明の見通しをもたせる。統合的・発展的に考察する際に、前提を変えて予想する



無解答率が高かったり、誤った計算や表現を記載してしまったりするのは、説明の見通しを立てることができないことが要因と考えられます。説明の見通しをもつために、統合的・発展的問題において、前提を変えて予想する学習活動に取り組むことが大切です。

【学習指導に当たって】 事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるように指導する



文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導するために、本設問を使って授業をする際は、「□に入る整数の和を表した式」を「 $2 \times$ (○に入れた整数の和)」の形にすればよいという見通しをもつこと、そして、それに沿って式を変形する場面を設定することが重要であると考えられます。

【具体的な授業の例】

問題解決の過程を振り返り、統合的・発展的に考察する指導事例

「○に入れた整数の和と□に入る整数の和の関係について考えよう」(第2学年)

報告書 P45、46 「授業アイディア例」の指導事例



<文字を用いた式の理解に課題 ～これまでの問題との関連～ >

今年度1「連続する2つの偶数を文字を用いた式で表すこと」や、令和5年度6(2)(3)、令和4年度6(2)(3)などこれまでの結果からも、文字を用いた式の理解に課題があることが分かります。特に、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」が課題です。